

クリニックレター 2014.Nov.

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

風邪をひいたときには風邪薬を飲まないほうが早く治る、 という理由

クリニックレターでは以前にも書いたことがあるのですが、「風邪をひいたときに市販の風邪薬や医師から処方される PL 顆粒などを安易に服用すると、風邪がかえって治りにくくなる！」ことについて、その理由を説明します。

まず、なぜ、風邪をひくと熱がでるのか？を考えてみましょう。

答えは、「風邪との戦いにおいて、熱をだしたほうが体に有利だから」です。風邪の原因は、RS ウィルス、インフルエンザウィルス、ライノウィルスなどの微生物ですが、体が熱をだすと、ウィルスの増殖が抑制されることがわかっています。また、発熱によって、白血球の働きが活発になり、免疫力が亢進することが知られています。

・・・ということは、風邪の初期に鎮痛解熱剤などをのんで熱を下げるということは、体が本来持っている、ウィルスをやっつけようとする働きを無理やり押さえ込んでしまい、免疫力を低下させて、かえって、風邪の原因であるウィルスを増やしてしまうことになるのです。

もう一つ、風邪はウィルスによっておこる病気ですから、**細菌を殺すお薬である抗生物質も、風邪の治療には必要のないものです。**咽喉が痛くて熱が出る、といった症状で抗生物質が効くのは、なんらかの細菌による急性扁桃炎や、急性気管支炎、肺炎などの場合に限られます。これらの抗生物質が必要な病気を疑った場合は、当院では、血液中の白血球数やCRPという炎症反応を迅速測定していますが、細菌感染症の場合、白血球数が通常の倍近くに増加することもあり、診断に役立っています。

しつこくもう一度書きますが、**ウィルス性の風邪には、市販の風邪薬や鎮痛解熱剤、PL顆粒などは、必要がないだけでなく、かえって風邪の治りを遅くすることもあります。また、抗生物質も必要ありません。**ではどうしたらよいのでしょうか？（裏ページへ続く）

その答えは、「漢方薬」です。

紙面の都合上、今回は皆様もご存知の漢方薬がどのような風邪の症状に使われるかをご紹介します。

葛根湯(カクコントウ)：寒気がして汗が出ず、肩やうなじがこり、手足の関節が痛むような風邪。「寒気」「無汗」は大事なサインです。

麻黄附子細辛湯(マオウブシサイシントウ)：普段から冷えやすく、寒さに弱い体質の方が、葛根湯の症状に似た症状を示したときに使います。

参蘇飲(ジンソイン)：普段から胃腸が弱かったり体力が低下した方が、寒気、咳、などの症状を示したときの薬です。

桔梗湯(キキョウトウ)・桔梗石膏(キキョウセッコウ)：咽喉の腫れや咳症状があるとき。他の漢方処方と一緒に用いることも多いです。

銀翹散(ギンギョウサン)：銀翹解毒散などの名前で薬局で売られている薬ですが、咽喉の痛みや頭痛、熱感があり、寒気はほとんどないときに用いられます。医療用エキス剤にはないため、荊芥連翹湯(ケイガイレンギョウトウ)などで代用します。

肺炎球菌ワクチンが定期接種になりました

肺炎球菌ワクチン(ニューモバックス)は、日常かかる肺炎の中で一番多い原因である「肺炎球菌」に対するワクチンで、1回接種すると5年以上免疫が持続することが知られています。

このたび、H26年10月から、この肺炎球菌ワクチンが定期接種に指定され、65歳以上の方には、公的補助が出ることになりました。

公的補助の対象は今年度に65・70・75・80・85・90・95歳になられる方及び100歳以上の方です。

それ以外の方にも予防接種をお勧めしますが、自治体からの補助を受けることはできません。

また、インフルエンザワクチンとの同時接種も可能です。詳しくは当院医師または看護師までお問い合わせください。



クリニックレターのバックナンバーをお読みにになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。